

納得感のあるジョブローテーション施策に創りあげよう！④

5月7日付 施策を担う組合員の想いと今後の決意 パート2

元職場の区長との面談では「(前職)としての能力は高いと思う。それを活かせる職場だと思うから」と次の職場に行った後の事ばかり話されました。そもそもの疑問である、なぜ駅なのか？その中でも、なぜ現在の職場なのか？は説明されませんでした。社員が会社の内実を知る事は何も悪い事ではないと思います。むしろ、本当の事を言ってもらえないと納得も決意もできません。駅に行きたくない、ではありません。選択肢になかった事を言われて困惑しただけです。実際、現職で仕事をしていると、持っている能力(自分であるとは思ってませんが)は活かせていません。1から覚えようという気持ちです。希望していない職種だから、と言っておもしろくない態度を仕事場面でとっていけば、迎え入れてくれた職場の方、お客さまにも伝わってしまいます。着任日までに気持ちを整理し、仕事と職場の人の名前・顔を覚え、1日も早く馴染もう！と思いながら、文字通り奮闘しています！

20年程経って、駅に戻ればいろんな事が見えてきます。安全で働きやすい職場、仲間の大切さを感じ合える職場を目指して一層がんばります！

私がこの会社に入社したのは、運転士になりたかったからです。学生の頃、列車通学をしていた時に、列車を運転する運転士を見て憧れたからです。憧れの運転士への道は、大変厳しいものでしたが、見習いを終えて、初めて一人で列車を運転した時の喜びは、生涯忘れることは出来ません。運転士という仕事は、やりがいもある反面、常日頃から体調管理に非常に気を使う職業です。それは、出退勤時間が毎日違うことや、大好きなお酒も我慢しなければならない等、乗務に向けて常にベストな体調を整えなければならないということです。しかし、それでも私が運転士にこだわりの理由、理由は、運転士として、安全のプロを目指したいと思っていたからです。その想いを昨年の秋の面談でも伝えてきました。ただ、現箇所の経験が約20年ということで、同箇所での運転士は希望出来ないとと言われていましたので、他区の運転士を希望しました。ジョブローテーションは、社員の夢と希望を叶えるものだと思っていましたし、仮に希望が叶わなかったとしても、納得感を持って異動出来るものだと思っていました。しかし、異動の打診以降、現場長に説明を求めましたが、希望が叶わない明確な理由は示してもらえませんでした。そして、異動理由も明確なものは示されませんでした。故に、納得感は今でも得られていませんし、悔しい気持ちは拭いきれていないのが正直なところです。

新しい職場に来て1ヶ月が経過し、新しい環境と仕事にも少しづつ慣れてきました。始めは別世界に飛び込んだような気持ちでした。しかし、仕事を身に着けていく中で、鉄道の安全は、各系統が1つになって創り出しているものだということが感じられました。そして、職場の皆さんが、私に丁寧に対応してくれたからこそ、前を向いて頑張れることを実感しています。

私が求めたいことは、社員の夢と希望を叶えるためにも、安全と健全な会社発展は譲れないということです。そのために、会社は社員としっかり向き合ってもらいたいということです。そして、私達組合員も会社施策を担う一人として、ジョブローテーションの正しい運用を求めてしっかりと主張していくことが大切だと実感しています。

このたたかいは始まったばかりです。皆さん共に頑張りましょう。